

20年後ぼくの 介護、君でできる？

青森県
動物愛護
センター

共催／公益社団法人青森県獣医師会・青森県動物愛護協会
協力／青森市保健所

9/23 Sat.

9/24 Sun.



心から愛していたのに 認知症で
犬を飼っていた事も忘れてしまった

最期まで飼えるって信じてた
失業して 鬱になって 困窮する前までは

親の介護 時間もお金も体力も限界
15才のあなたを手放します ごめんなさい

親が亡くなり 残された5匹のネコ
こまるよ うちの飼えない

親が野良ネコ餌やり やめてくれない
うちの敷地で赤ちゃんうまれた

考えたこともなかった
犬の認知症で 家族の生活が壊れるなんて

最期まで責任持つって
とてつもなく難しい。

動物愛護
フェスティバル
2023

特別企画

動物との暮らしのしまい方

ペットを含む動物たちにとっての、新しい時代が来ました。

かつて10年と言われていたペットの寿命、今は20年生きる子も少なくありません。獣医療の高度化に伴い、飼育にかかる費用も上がってきています。地域猫など、動物との新しい関わり方も出てきました。どんな形であれ、関わった動物には責任が生じます。

人の寿命も長くなりました。人々の生活スタイルも変わりました。親の介護期間は平均5年、長ければ10年以上。同居介護で疲弊する、遠距離介護で資金が尽きる。そこに自分のペット、親のペットの介護が加わったら…

法律上逃れることのできない相続という問題もあります。親兄弟の残したペットはあなたに降りかかります。親の猫屋敷をまるごと相続する悲劇も起きています。そして、あなたのペットもまた、あなたの子や兄弟に降りかかるのです。

「最期まで、面倒をみないなんて無責任」

そんなに簡単に、言えることでしょうか？自分は絶対大丈夫と、言い切れるでしょうか？今回のイベントでは、関連YouTubeの紹介と共に、愛護センター職員と対話する場を設けます。ふだんの担当業務も専門分野も異なる5人のスタッフが、場内を巡回します。★をつけたスタッフを見かけましたら、どうぞお気軽に声をおかけください。

あなたのペット問題を一緒に考えましょう。



林健太郎（獣医師）
担当 | 多頭崩壊、野良猫問題、引取り

多頭崩壊や野良猫紛争で、原因者、家族、被害者の多くの声を聞いてきた。問題の根底には、高齢、生活困窮、精神障害など多様な要因がある。1つでも多く解決に導きたい。



佐々木慎哉（獣医師）
担当 | 譲渡、老犬問題

小動物臨床経験あり。日々「命の選別」を行う中で、お年寄りに大切に飼われていた老犬が処分される現状に心を痛める。現在、このような老犬を助ける方法を画策中。



松山美砂子（獣医師）
担当 | 感染症制御、法律、動画及び広告制作

プライベートで遠距離介護、家族信託、相続を経験。関係法律を勉強するうちに、シニアのペット問題の恐ろしさを知る。動画やサイトを通じて、法律や解決策をわかりやすく解説して発信したい。



葛西美由貴（飼育員）
担当 | 管理施設の動物管理

秋田犬1頭、ネコ4匹と暮らす。自分は動物たちに支えられて生きてきた。センターに来た子たちの中には、ここが最期の場所になる子もいる。せめてここにいる時間を、幸せに過ごさせてあげたい。



佐藤千芳子（飼育員）
担当 | 動物管理、接客、譲渡動物紹介の作成

介護、保育、看護系の従事経験あり。人の介護や看護の経験が、今とても役立っている。老犬老ネコの状態は毎日変わる。少しでも快適に暮らせるように、色々な工夫をしていきたい。



動物ふれあい
・乗馬体験
・ウサギふれあい



なりきり獣医さん



A new era of PETS. How should we go?

青森県動物愛護センター
青森市大字宮田字玉水119-1
017-726-6100



特設ねこギャラリー



デモンストレーション
・災害救助犬
・警察犬
・犬のしつけ教室



キッズコーナー
・鳥の工作
・缶バッジ

センターの活動紹介
・地域猫活動支援
・ミルクボランティア



学生さんの企画
・命の花プロジェクト
・無料簡易トリミング



・クイズラリー
・動物愛護ポスター表彰式